

# アート・オブ・ベースボール



スポーツ文化評論家 玉木 正之

(2)



Currier and Ives作品=ゲッティ共同

1846年6月19日、史上初の野球の公式戦がニューヨークで行われ、そのときルールが定まった。3ストライクで打者アウト。3アウトで攻守が交代。一二塁間と二三塁間に投手の斜め後方で守備をしていた二人の遊撃手を、二三塁間の一人に削減。両チームの選手を服装の色で区別するようになり、守備の選手と区別するためバットを持ったまま塁に出ていた走者が、バットを捨てて塁に出るようになった。等々。しかし現代の野球と異なる点も多く残った。

投手はボールを下手から投げ、打者はバットを握る両手を離して構え、審判は本塁の横に立ち、内野手はベースを踏んで守っていた。そんな長閑な野球の様子を描いたリトグラフが残されている。

が、野球の誕生から現在まで、変わらないことがある。それは塁間90フィート(約27メートル)の距離と観客の存在。走者がバットを持ったまま走った時代から、素早い牽制や激しい滑り込みが常識になった現代まで、90フィートの塁間に囲まれた「ダイヤモンド」と呼ばれる空間では、観客が興奮し熱狂するクロスプレーが起り続けているのだ。

「久方のアメリカ人のはじめにしベースボールは見れど飽かぬかも」(子規)(1846年)